しろね図書館だより

発行　新潟市立白根図書館
No.87　平成19年8月1日

✿ 8月の展示架テーマ「コワイハナシ」

こわ～いおはなし大会　8月18日(土)開催

不思議なおはなし、こわ～いおはなし…暑い夏、図書館でこわ～いおはなし大会に参加して涼しみませんか。絵本もやります。

1回目　午後3:00～3:30　<あかちゃん・小さい子むけ>
2回目　午後3:30～4:00　<小さい子むけ>
3回目　午後4:00～4:30　<小学生から>
4回目　午後4:30～5:00　<小学生から>

【ばしょ】　しろね図書館　おはなしのへや

＊各回30人までです。はじまる5分前には集まってください。

7月の

来館者	18,517 人
貸出冊数	16,622 冊
予約件数	266 件
ブックバス利用者	749 人
ブックバス貸出冊数	1,923 冊

リクエスト情報　(しばらくお待ち下さい)

1位　触感力　(6名)
2位　陰日向に咲く　(5名)
3位　女性の品格　(5名)
4位　戦場のニーナ　(4名)
5位　夜明けの街で　(4名)
他

第82回読書会　「卵の緒」瀬尾まいこ 著（マガジンハウス）

8月19日(日)　午後2:00～　白根学習館 ルーム2

すべてはなるようになる！こんな"家族"のかたちもあるもんなんだな。
いきなり「僕は捨て子だ」なんてセンセーショナルな告白！で、読み出したらもう止まらない！最後までイッキに読みきって、もっと読みたい！と思わせるものはなかなかないかもしれない。久しぶりにそんな作品に出会った。

2007年7月16日(月)10時13分新潟県中越沖でM6.8の地震が起きました。
新潟県中越地震からまだ3年もたっていませんでした。
地震によって亡くなられた方のご冥福を祈ると共に、被害のあった地域の一日も早い復興を望みます。

7月28日

図書館員になってみる日を開催しました！
午前の部、午後の部と合わせて13人の子どもたちが図書館になって、カウンターで本の貸出・返却や本を棚に戻す作業、おはなし会で絵本の読み語りを体験しました。初めての作業で戸惑うことも多かったと思いますが、慣れてくるとあいさつもはっきりと大きな声で言うこともでき、みんなイッパシの図書館員になっていました。参加してくれた子どもたちの感想を少しだけ紹介します。

短い時間だったけど、やってみてよかったと思った。毎回やってみたい。
星野颯斗くん

私は将来、この仕事がやりたくて、今回の"図書館員になってみる日"に希望しました。とても良い参考になったのでよかった。これからも本をたくさん読みたいと思います。
山田春香さん

返却した後、本を元の位置に戻すとき、番号に気をつけて返すけど、本がたくさんあるので、図書館員も毎日大変な事をしているんだなと思いました。
飯塚みなみさん

読み聞かせは、緊張したけどいっぱい練習したので上手に言えました。貸し出しや返却は、バーコードにおすのが大変だったけど、とても楽しかったです。夏休みのいい思い出になりました。
阿部真稀さん

学習席をご利用のみなさんへ
楽しい楽しい夏休みがやってきました。いっぱい遊ぶためにも宿題は早めに終わらせましょう。受験勉強をする人もいるでしょう。
学習館では中学生・高校生に創作活動室1を学習室として開放しています。
時間は10:00～17:00。利用する場合は受付が必要です。
学習館の窓口で申し込んで下さい。

◆夏休み期間、ブックバスは運休します。
9月5日(白根北中・大通小)から再開します。

8月の行事

1(水)	絵本のじかん 3:00～
4(土)	おはなし会 3:00～
8(水)	第70回 あかちゃんが はじめてであうほん 絵本のじかん 3:00～
11(土)	おはなしかご例会 10:00～ おはなし会 3:00～
15(水)	絵本のじかん 3:00～
18(土)	こわ～い おはなし大会 3:00～
19(日)	第82回読書会 2:00～
22(水)	絵本のじかん 3:00～
25(土)	おはなしかご例会 10:00～ おはなし会 3:00～ 雑誌リサイクル
29(水)	絵本のじかん 3:00～

第八十一回読書会

平成十九年七月十五日（日）
午後二時～

『アラビアン・ナイト』

（岩波少年文庫他）

アラビア地方に古くから語り継がれ、子どもから大人までが楽しめる空想豊かな物語

☆☆　参加者の感想　☆☆

☆　アラビアンナイトという言葉は小さい時以来ご無沙汰していたが、市民ミュージカル「白根版千夜一夜物語」の上演を機会に改めて何篇か読んでみた。その中でアリババと四十人の盗賊がおもしろかった。盗賊のほら穴から金貨を運び出したアリババは、何度も命を狙われる。盗賊は商人になりすましたり、変装したりしてアリババに復讐を企てたが、その都度利口な女モルジアーナに救われる。ハラハラ、ドキドキの連続でした。

☆　ランプをこするとものすごい巨人が現れたり、指輪をこすると恐ろしい顔をしたノッポの魔物が土の中から現れたりして「魔法」は不思議な世界へ連れて行ってくれる。その一方、裏切りの復讐のためにかけた、半分は石、半分は人間の化け物にさせてしまう恐ろしい魔法もある。「猟師と魔物」は大人が読んでも十分楽しめる物語である。

☆　皇帝、王妃、王子、総理大臣、大臣、高官、黒人奴隷、白人奴隷など身分がはっきりと分かれており当時の階級社会を強く感じた。

☆　ものいう鳥を手に入れるためにとった王女の行動に感心した。王女は、恐ろしい大声に怯えることなく、まっすぐ鳥かごのところに登っていく、耳に綿をつめ何も聞こえないようにして、決して後ろを振り向かず登りきり、目指す鳥を手に入れた。これを読んで、人の話はよく聞かなければならないと言われているが、時には耳に綿をつめ自身のおもいで進んでいくことが、大切なときもあるんだなあと思った。

☆　アラジンの魔法のランプを読み返したが、こんな超能力ができるランプがあれば良いなあと思った。

☆　全体にわかりやすい物語であり、時を越えて誰でもが親しめる内容であった。

☆　雄大な自然を背景とした壮大な物語であり子どもから大人までが楽しめる物語であった。

☆　子どもの頃の記憶をたどりながら久しぶりに本格的な児童書を読んだ。現実にはありえない不思議な話を楽しみながら読んだ。

☆　「アラジンと魔法のランプ」は一番読み応えがあった。また、旅が好きなので「船乗りシンドバットの物語」は、情景を想像しながらワクワクして読んだ。

☆　王様に毎晩語り続けたシェヘラザードのように子どもたちに語り続けて行きたいと思う。また、表紙や挿絵がとても素敵で一枚一枚額に入れて飾りたいようでした。特に「ものいう馬と歌う木と金色の水」のペリザード王女の姿が気に入った。

☆　「ベビの妖精と二匹の黒犬」を読んだが、改めて宗教の力を感じるとともに、現代のアラブ問題の難しさを感じた。

☆　全部で二百六十以上もあると言われている「アラビアンナイト」今回読んだ以外のお話も興味深々でぜひ読んでみたいと思った。

（坂井治一）

次回の読書会は八月十九日(日)

「卵の緒」瀬尾まいこ　著

（マガジンハウス）

本はカウンターに用意してあります。

『ターシャ・テューダーの世界　ニューイングランドの四季』

ターシャ・テューダー、リチャード・ブラウン著　文芸春秋
（ティーンズ　２９５テ）

みなさんはターシャ・テューダーという人物を知っていますか。どこかで聞いたことがあるという人も多いのではないでしょうか。数多くの絵本の作家・さし絵画家として活躍しており、九十歳を超えた今でも現役で執筆を続けている女性です。近年 NHK でターシャの庭が映像化されたことでも話題になりました。

ターシャは１９１４年に画家の母親と有能な造船技師である父親の間にアメリカのマサチューセッツ州ボストンで生まれました。代々社交界をにぎわす名家の出身である両親はターシャにジュニア・リーグ（女子青年連盟。社会奉仕活動をおこなう組織）に参加したり、社交界にデビューしたりして優雅なふるまいをすることを望みましたが、ターシャ本人は周りや両親が重要だとみなしているそれらのことには全く興味を示さず、庭いじりをしたり牛のお乳をしぼってさえいれば満足だったといいます。幼い頃からずっと１８３０年代の昔の生活にあこがれ、人里離れた家に住んで、草花に囲まれながら自給自足の生活をして自由気ままに暮らしたいと思っていたのです。現在は長年持ち続けていた夢を自らの手ですべてかなえ、バーモント州のニューイングランドで愛犬と暮らしながら日々違う顔を見せる庭の手入れをしながら暮らしているそうです。

ターシャが世間に広く知られるようになったのは自身が手がけた絵本によるのはさることながら、その独自のライフスタイルや考え方、そして精根こめて作り上げたすばらしいターシャの庭が注目されるようになったからです。

掃除機も洗濯機もテレビもあるこの便利なこの時代、ターシャのようにそれらの何もない昔の生活をたった一人で、４人の子どもを育てながらおくるのはとても厳しいことのように思います。しかしそれでも自分のスタイルを決して崩さず、“自分の生活すべてに満足していて、自分は幸せだ”と言い切るターシャに人々はあこがれ、共感するのでしょう。

人と違ったことをする、人と違った考えを持つというのは時に周りから奇異の目で見られたり、笑われたりすることも少なからずあるものです。実際、ターシャもそのようなことがあったと言っています。けれど周りの批判に左右されず、やるべきことを見きわめ、行動し、夢を実現させたターシャをとても素敵な人だなぁと私は思います。

この本はそんなターシャの暮らしぶりや庭、自身の考え方が写真と文章によってたくさんつまっています。ターシャ・テューダーについて知ることができるのはもちろんのこと、ガーデニングや１９世紀のヨーロッパの雑貨や洋服に興味がある人も写真集として楽しむことができます。

また、図書館には『ターシャの庭』『ターシャの家』など、ターシャ・テューダー関連の本が他にもありますし、ターシャの手がけた絵本もたくさんおいてあります。ターシャの絵本は絵がとても丁寧に細かく描かれており、ながめているだけでどこかほっこりと心があたたまるのを感じることができます。

ぜひ一度、手に取って見ることをおすすめします！

（司書　小林冴子）